

令和2年度行政事業レビューシート (金融庁)

事業名	監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) 拠出金等			担当部局	総合政策局	作成責任者			
事業開始年度	平成27年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	IFIAR戦略企画本部IFIAR戦略企画室	長岡 隆			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	『未来投資戦略2017』(平成29年6月9日閣議決定) 『未来投資戦略2018』(平成30年6月15日閣議決定) 『成長戦略フォローアップ・令和元年度革新的事業活動に関する実行計画』(令和元年6月21日閣議決定)				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	多国間の監査協力ネットワークの拠点として我が国の国際的なプレゼンスを高め、監査品質の維持・向上に向けた国際的な協力関係の構築・充実に資する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	我が国に本部である事務局を置く初の金融関係国際機関である監査監督機関国際フォーラム(IFIAR)に対し、同事務局の円滑な運営に向け、ホスト国として必要な支援を行う。また、同事務局と共に代表理事会等国際会議の円滑な運営を行う。								
実施方法	その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	6	-	-	-		
		計	127	93	93	93	93	100	
	執行額	126	92	92					
	執行率 (%)	99%	99%	99%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	99%	106%	99%					
	令和2・3年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由				
監査監督機関国際フォーラム拠出金		92	99	IFIAR事務局へ派遣する職員の給与のうち、金融庁の負担割合が増えたため、632万円の増額。					
庁費		1	1						
その他		0	0						
計		93	100						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
	金融に関する国際的な議論に積極的に参画し、日本のプレゼンスを高め、国際協調に貢献していく	IFIARにおける重要な意思決定機関である代表理事会への参加回数	成果実績	回	3	3	3	-	-
			目標値	回	3	3	3	-	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	内部資料								
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
	金融に関する国際的な議論に積極的に参画し、日本のプレゼンスを高め、国際協調に貢献していく	代表理事会及び関連会合のホスト回数	成果実績	回	1	1	0	-	-
			目標値	回	1	1	1	-	-
			達成度	%	100	100	0	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	内部資料								

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
				成果実績	目標値	達成度	-	-
事務局が円滑に運営されること	代表理事会の年間開催回数	成果実績	回	3	3	3	-	-
		目標値	回	3	3	3	-	-
		達成度	%	100	100	100	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	内部資料							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
				成果実績	目標値	達成度	-	-
IFIAR事務局において金融 庁職員が勤務すること	IFIARにおける日本人職員 数	成果実績	人	0	1	2	-	-
		目標値	人	-	1	1	-	-
		達成度	%	-	100	200	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	内部資料							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 -年度
				成果実績	目標値	達成度	-	-
IFIARにおける議論を国内 に対し積極的に発信する	IFIARネットワーク会議開催 回数及びIFIARに関する ウェブサイト掲載回数等	成果実績	回	4	3	5	-	-
		目標値	回	3	3	3	-	-
		達成度	%	133	100	166	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回監査監督機関国際フォーラム(ギリシャ会合)について(金融庁ウェブサイト 令和元年5月公表) ・監査監督機関国際フォーラムによる「2018年検査指摘事項報告書」について(金融庁ウェブサイト 令和元年5月公表) ・日本IFIARネットワーク第3回総会議事次第(金融庁ウェブサイト 令和元年6月公表) ・監査監督機関国際フォーラムによる検査指摘率削減の取組結果の公表について(金融庁ウェブサイト 令和2年2月公表) ・監査監督機関国際フォーラムによる「2019年検査指摘事項報告書」について(金融庁ウェブサイト 令和2年2月公表) 							
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込	
			活動実績	当初見込み	-	-		
事務局招致国としての責務に係る拠出金の負担実施件 数	活動実績	件	1	1	1	-	-	
	当初見込み	件	1	1	1	1	1	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込	
			活動実績	当初見込み	-	-		
代表理事会及び関連会合のホスト回数	活動実績	回	1	1	0	-	-	
	当初見込み	回	1	1	1	1	1	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込	
			活動実績	当初見込み	-	-		
IFIAR事務局への職員派遣数	活動実績	人	0	1	1	-	-	
	当初見込み	人	0	1	1	1	1	
単位当たり コスト	算出根拠	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込		
			単位当たり コスト	百万円	41	1	-	1
監査監督機関国際フォーラム会議開催庁費/会議ホ スト回数	計算式	会議開催庁 費/会議ホ スト回数	41/1	1/1	-	1/1		
	単位当たり コスト	算出根拠	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	
単位当たり コスト				百万円	85	91	92	92
監査監督機関国際フォーラム拠出金/事務局の誘致	計算式	拠出金額/ 事務局が日 本にあるこ と(1)	85/1	91/1	92/1	92/1		

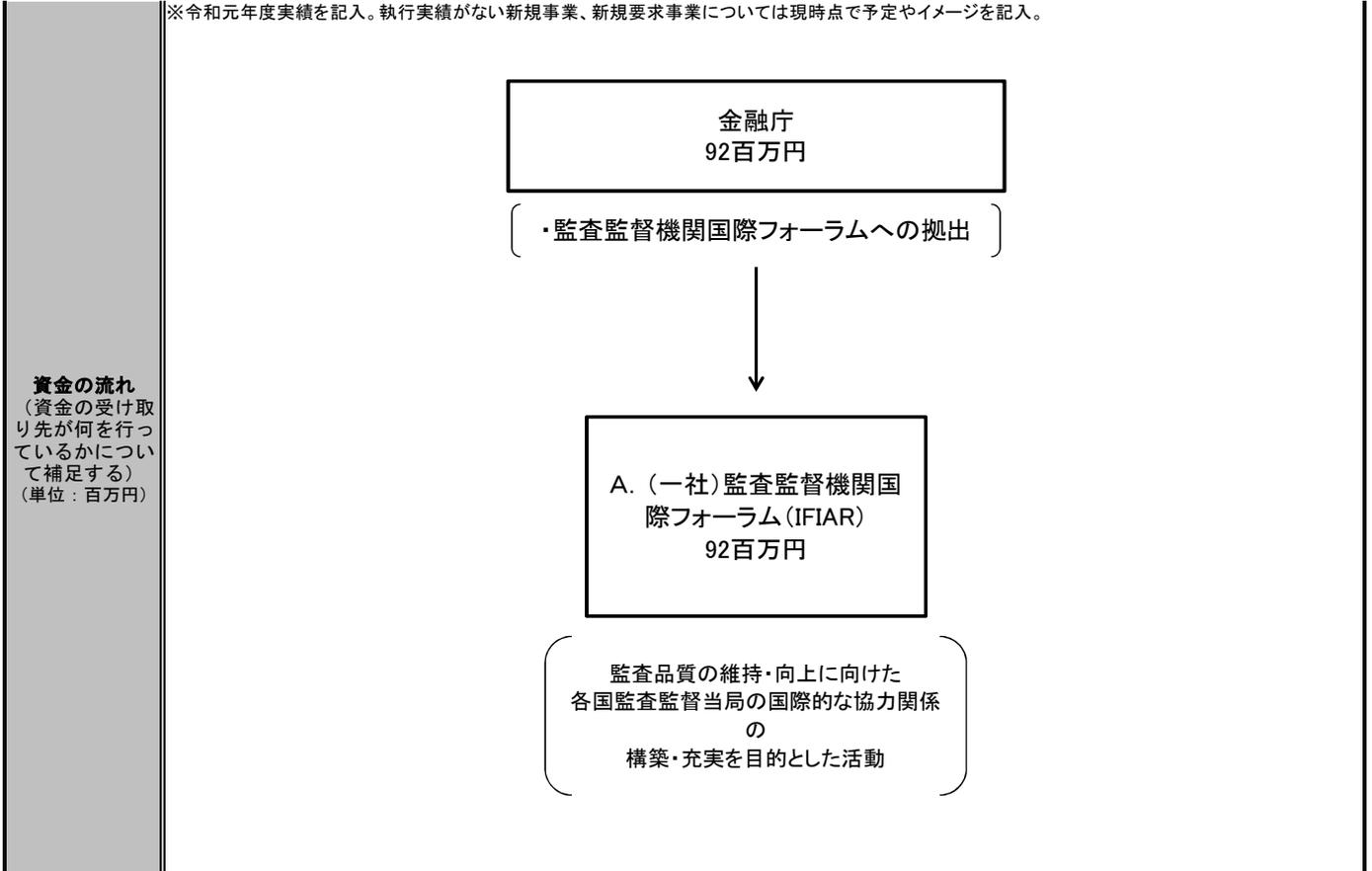
政策評価	政策	-							
	施策	-							
	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-		
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
-									
新経済・財政再生計画との関係	取組事項	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
	本事業の成果と取組事項・KPIとの関係								
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	『成長戦略フォローアップ・令和元年度革新的事業活動に関する実行計画』における「東京国際金融センター構想の推進」に向けた取組みの一環であり、我が国の国際的なプレゼンスを高め、また東京の国際金融センターとしての地位を向上させると考えられ、国民や社会のニーズを反映していると考ええる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	IFIARは各国の監査監督当局が参加する国際機関であり、日本からは金融庁及び公認会計士・監査審査会が参加している。また、IFIARでは、監査品質の維持・向上に向けた各国監査監督当局の国際的な協力関係の構築・充実に資する活動が行われている。以上のことから、地方自治体や民間等に委ねることができない事業であると考ええる。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	IFIAR事務局という国際機関の円滑な運営に向け、ホスト国として必要な支援を行うとともに、代表理事会等国際会議の円滑な運営を行うことは、我が国の国際的なプレゼンスを高め、監査品質の維持・向上に向けた国際的な協力関係の構築・充実に資するため、必要かつ適切な事業であると考ええる。 また、『成長戦略フォローアップ・令和元年度革新的事業活動に関する実行計画』において「東京国際金融センター構想の推進」に向けた取組みの一環として明記されており、優先度の高い事業であると考ええる。
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	IFIAR代表理事会及び関連会合運営等請負経費については、少額のため随意契約としているが、複数業者から見積書を徴収しており、競争性の確保・コスト削減に努めていると考ええる。
一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
競争性のない随意契約となったものはないか。	無		

事業の効率性	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	IFIAR事務局の円滑な運営に向け、ホスト国として必要な支援を行うとともに、代表理事会等国際会議の円滑な運営を行うという本事業は、我が国の国際的なプレゼンスを高め、監査品質の維持・向上に向けた国際的な協力関係の構築・充実に資するためのものであり、国民全体の利益に資すると考えられるため、国費負担は妥当と考える。				
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	IFIAR代表理事会開催経費は、過去に行われた類似規模の国際会議開催経費を参照する等十分な検討がなされており、妥当な水準と考える。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	IFIARの予算について、全加盟国による予算承認手続きが行われるほか、事務局から会計報告が行われており、費目・使途は真に必要なものに限定されていると考える。				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-					
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-					
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	事務局ホスト国としての責務に係る拠出金を適切に支出し、IFIAR事務局の円滑な運営を実現しており、目標に見合った実績をあげていると考える。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	事務局ホスト国としての責務に係る拠出金を適切に支出して事務局の円滑な運営を支援している。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-					
	所管府省名	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果	<p>○ IFIAR事務局のホスト国として、円滑な運営に向けた支援のための拠出金を適切に支出しているほか、同事務局と共に代表理事会等の国際会議を円滑に運営している。</p> <p>○ 我が国の国際的なプレゼンスを高め、東京の国際金融センターとしての地位を向上させるため、費用の支出や会議の開催に加えて、IFIAR代表理事会への参加(令和元年度:3回開催中3回)を通じて、監査品質の維持・向上に向けた議論に積極的に貢献している。</p> <p>○ 成果・活動の指標及び実績の代表理事会及び関連会合のホスト回数について、当初は令和元年度も1回は東京で開催することが見込まれていたが、ホスト国のバランスを取る観点から他国での開催となったため、ホスト回数が0回となった。代わりに令和2年3月に作業部会をホストとして開催することが予定されていたが、新型コロナウイルスの影響により開催が中止となった。</p>					
	改善の方向性	<p>○ 本会合等の国際会議を通じ、積極的に国際機関の運営に関わるとともに、国際機関に対して効率的かつ効果的な運営・政策立案を求める。</p> <p>○ また、当該機関の活動を広く国民に知ってもらうため、ウェブサイトや国内における監査のステークホルダーによる「日本IFIARネットワーク」等を活用し、監査品質の向上に向けたIFIARにおける議論を国内に対し積極的に発信する。</p>					
外部有識者の所見							
(外部有識者点検対象外)							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状通り	引き続き、拠出された資金が有効に活用されるよう、資金使途を確認すること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
現状通り	本経費については、拠出された資金が有効に活用されるよう、資金使途をフォローしていくとともに、IFIARとの協力と貢献に関する合意(ホスト合意)に基づき、ホスト国として必要な支援を行うための予算要求を行っていく(令和2年度以降、IFIAR事務局へ派遣する職員の給与のうち金融庁の負担割合が増えたため、令和3年度においても、前年比632万円の増額)。						
備考							
-							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	新28-0004	平成28年度	20	平成29年度	0013
平成30年度	20						
平成31年度	金融庁 (0021)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A. (一社)監査監督機関国際フォーラム (IFIAR)			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事務運営費	監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) 事務運営費	92	-	-	-	-
計		92	計		0	

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(一社)監査監督機関国際フォーラム	6010005026240	拠出金	92	その他	-	-	